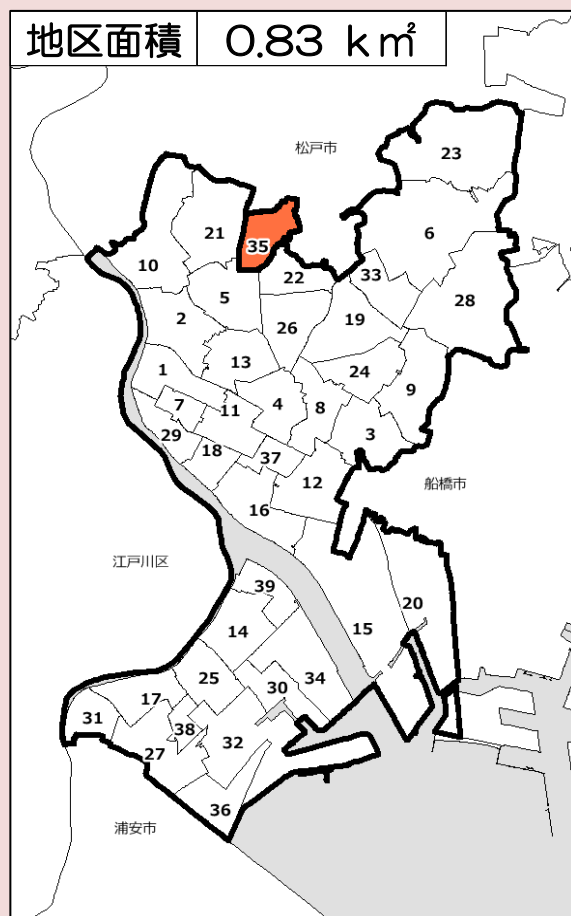


# 35 稲越小学校区

## (1) 位置



## (2) 地区概況

### ◆位置

稲越小学校区は市の北部に位置し、地区の西側は国分川に面し、地区内に春木川が縦断しています。また、北側に松戸市が隣接しています。

### ◆地形・土地利用

地形は、台地と氾濫平野で構成され、高低差があります。地区の東側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。この地域には農地等があり、農産物を供給する農業地域として、自然の多く残る環境を保っています。

### ◆都市基盤

地区内西側には、国分川調節池緑地があります。また、地区内には、JR市川駅行きの京成バスが通っています。

## (3) 人口・建物概況

### ◆人口

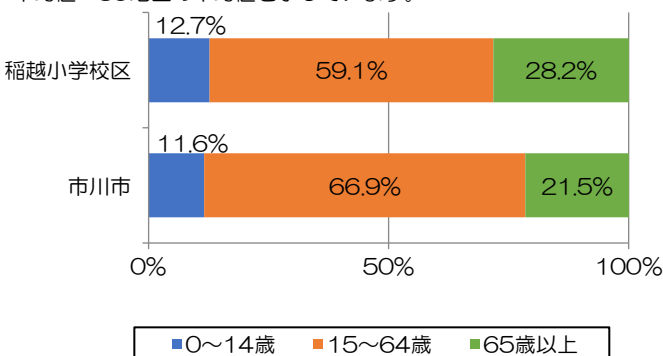
#### 年齢別割合

|      | 稲越小学校区 | 市川市      | 割合※  |
|------|--------|----------|------|
| 人口総数 | 4,373人 | 492,564人 | 0.9% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

|     |         |
|-----|---------|
| 平均値 | 12,630人 |
|-----|---------|

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると65歳以上の割合が高く、高齢の世代が多い地区となっています。

### ◆建物

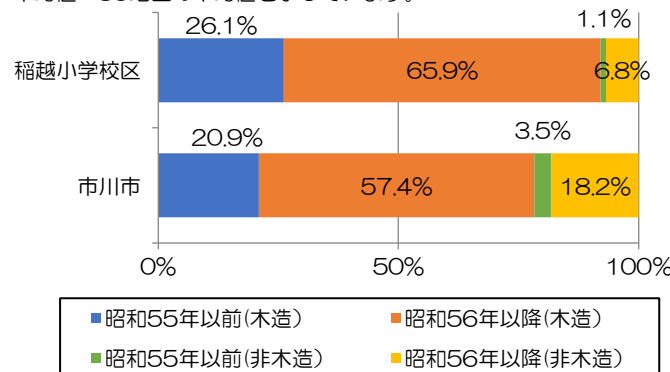
#### 構造別割合

|      | 稲越小学校区  | 市川市       | 割合※  |
|------|---------|-----------|------|
| 建物総数 | 1,660 棟 | 107,267 棟 | 1.5% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

|     |        |
|-----|--------|
| 平均値 | 2,750棟 |
|-----|--------|

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の建物は平均より少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや低いです。また、木造建物が多い地区となっています。

## (4) 災害リスク評価

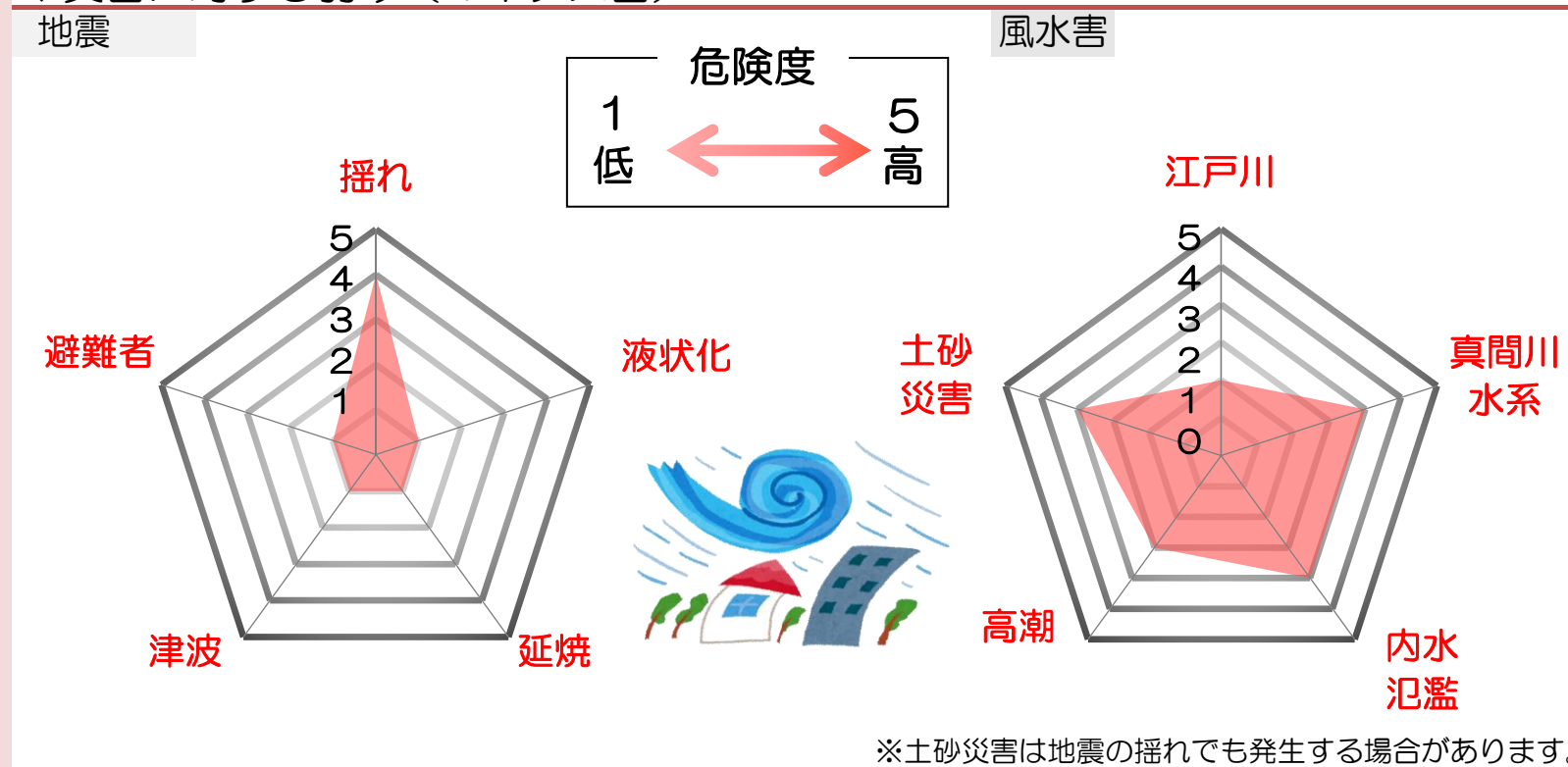
市川市防災カルテ

稲越小学校区



災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

### ◆災害に対する弱み（マイナス面）



### ◆災害に対する強み（プラス面）



### ◆評価

稲越小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れによる危険性が高い傾向にあります。風水害については、真間川から分岐する春木川や国分川が流れていることから、低い土地は真間川水系の氾濫による浸水の危険性があり、地区内に土砂災害警戒区域等があることから土砂災害による危険性もあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、延焼のしにくさ、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力、避難場所の受入力、防災活動力は高い傾向にあります。

## （５）防災関連施設

### ◆避難所及び福祉避難所

| 施設名    | 福祉避難所 | 施設名 | 福祉避難所 |
|--------|-------|-----|-------|
| 稲越小学校  | -     |     |       |
| 東国分中学校 | -     |     |       |
| 県立国分高校 | -     |     |       |
| オアソ市川  | ○     |     |       |
|        |       |     |       |
|        |       |     |       |
|        |       |     |       |
|        |       |     |       |

### ◆避難場所

| 名称     |
|--------|
| 稲越小学校  |
| 東国分中学校 |
| 県立国分高校 |
|        |
|        |
|        |
|        |
|        |

### ◆地区内の主な施設

| 種別           | 施設名 | 施設名 | 種別    | 施設名 |
|--------------|-----|-----|-------|-----|
| 要配慮者利用施設（公設） | なし  |     | 医療救護所 | なし  |
|              |     |     | 関連施設  | なし  |
|              |     |     |       |     |
|              |     |     |       |     |
|              |     |     |       |     |



## （６）被害想定結果（地震・風水害）

### ◆地震災害（被害を受ける割合）

| 想定項目 |                        | 稲越小学校区 | 市川市全体 |
|------|------------------------|--------|-------|
| 建物被害 | 全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 3.7%   | 4.8%  |
|      | 半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 8.9%   | 11.8% |
|      | 焼失棟数の割合                | 2.0%   | 10.2% |
|      | 浸水棟数（津波）の割合            | 0.0%   | 1.1%  |
| 人的被害 | 死者の割合                  | 0.0%   | 0.1%  |
|      | 負傷者の割合                 | 0.3%   | 0.4%  |
|      | 避難者の割合                 | 8.1%   | 20.0% |



### ◆風水害（被害を受ける割合）

| 想定項目 |              | 稲越小学校区 | 市川市全体 |
|------|--------------|--------|-------|
| 建物被害 | 浸水棟数（江戸川）の割合 | 0.0%   | 52.9% |
|      | 浸水棟数（真間川）の割合 | 42.0%  | 47.7% |
|      | 浸水棟数（内水）の割合  | 51.6%  | 57.9% |
|      | 浸水棟数（高潮）の割合  | 10.6%  | 64.9% |



市全体の結果と比較すると、地震被害については、新耐震基準の建物割合がやや低く、木造建物が多いものの、他地区よりやや震度が低いため、焼失被害は少ない傾向となっています。また、人的被害についても、特に避難者が市全体より少なくなっています。

一方で、風水害については、近くを春木川や国分川が流れていることから、低地部では真間川水系の氾濫の影響を受け、内水氾濫による影響も受けるものの、東側が台地であることから、市全体と比較して浸水棟数は少なくなっています。

## （７）防災上の課題

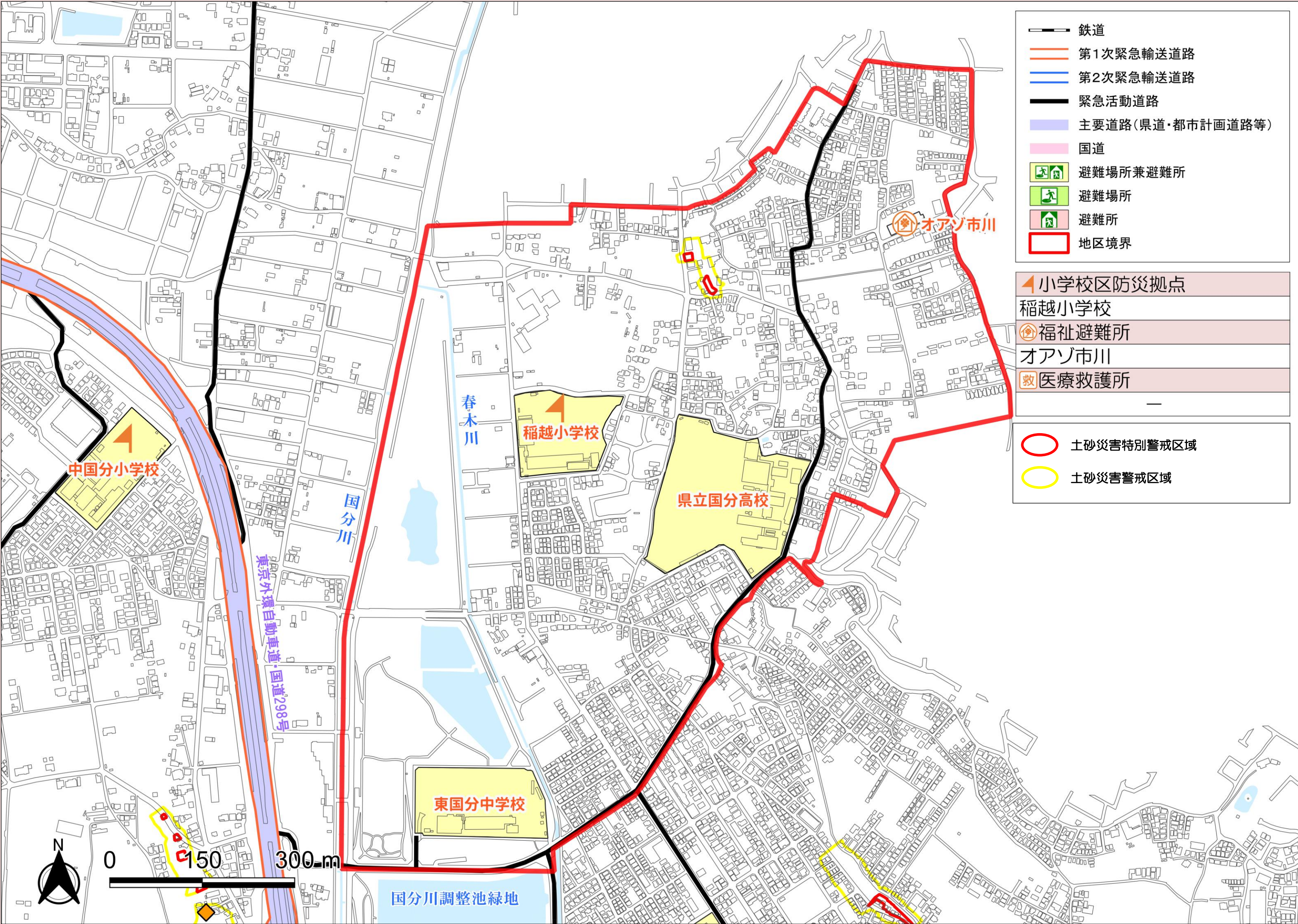
| 項目     | 課題                                                                                                                                    |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地震     | 地区内において、震度6強の揺れが予測され、揺れによる危険性が高く、過去には液状化による被害も発生していることから、耐震対策や家庭での備蓄対策等が重要です。また、地区内に土砂災害警戒区域等があることから、土砂災害発生時の避難対策も必要です。               |
| 風水害    | 市全体と比較して浸水棟数は少ないものの、春木川や国分川が流れていることから、低い土地は河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。また、土砂災害警戒区域等があることから、土砂災害発生に備えた避難対策が重要です。      |
| まちの安全性 | 地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、延焼遮断帯となる空地や耐火建築物の占める割合が低いことから、初期消火の対策等が重要です。さらに、消防水利の充足が低く、消火までに時間を要することが考えられるため、初期消火の対策等が重要です。 |
| 地域の防災力 | 地区では、地域の防災力が高い傾向を示しているものの、さらに防災組織結成の促進や既存組織での訓練などの取り組みを進めていくことが重要です。                                                                  |

## （８）防災対策の方向性

| 項目    | 取組の方向性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の取組 | 地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止をしておくことが効果的です。<br>災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災活動力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。<br>土砂災害の危険性も考えられることから、あらかじめ地域間で危険箇所等を共有しておくことが重要です。                                                                                                                              |
| 個人の取組 | 地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策を進めるとともに、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。<br>消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。<br>一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 |



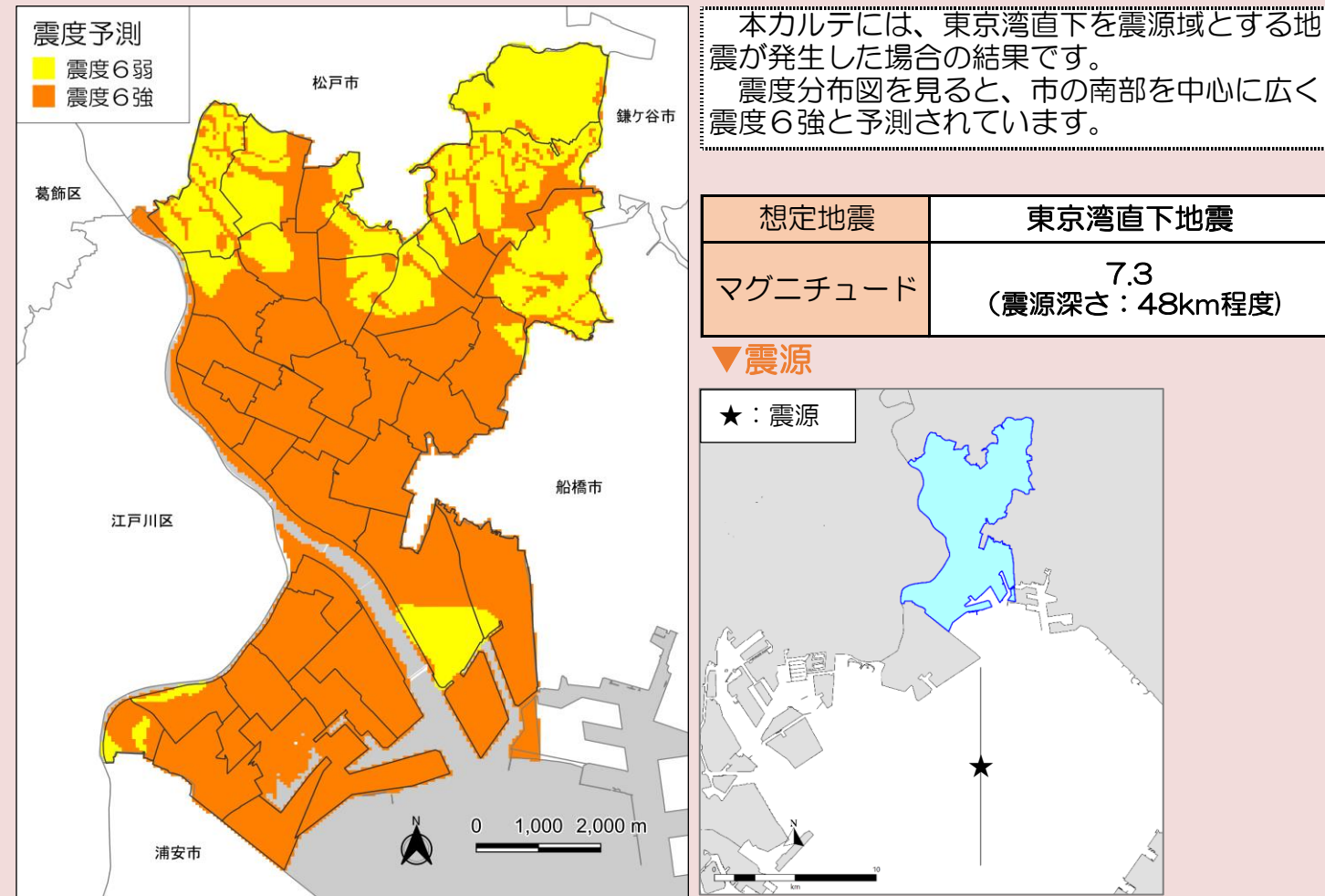
(9) 防災マップ





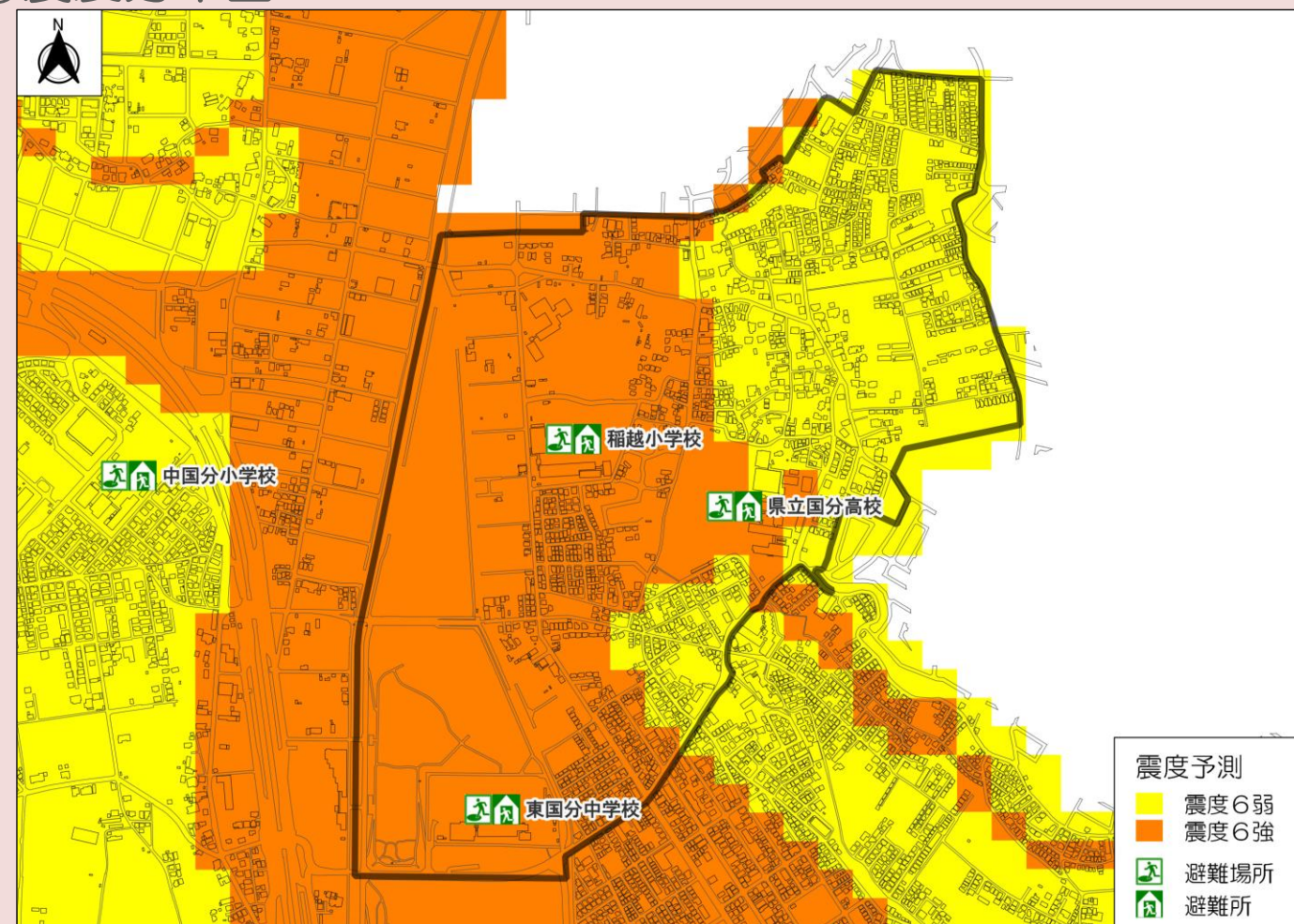
## (10) 基礎資料

### ①市全域の震度分布図

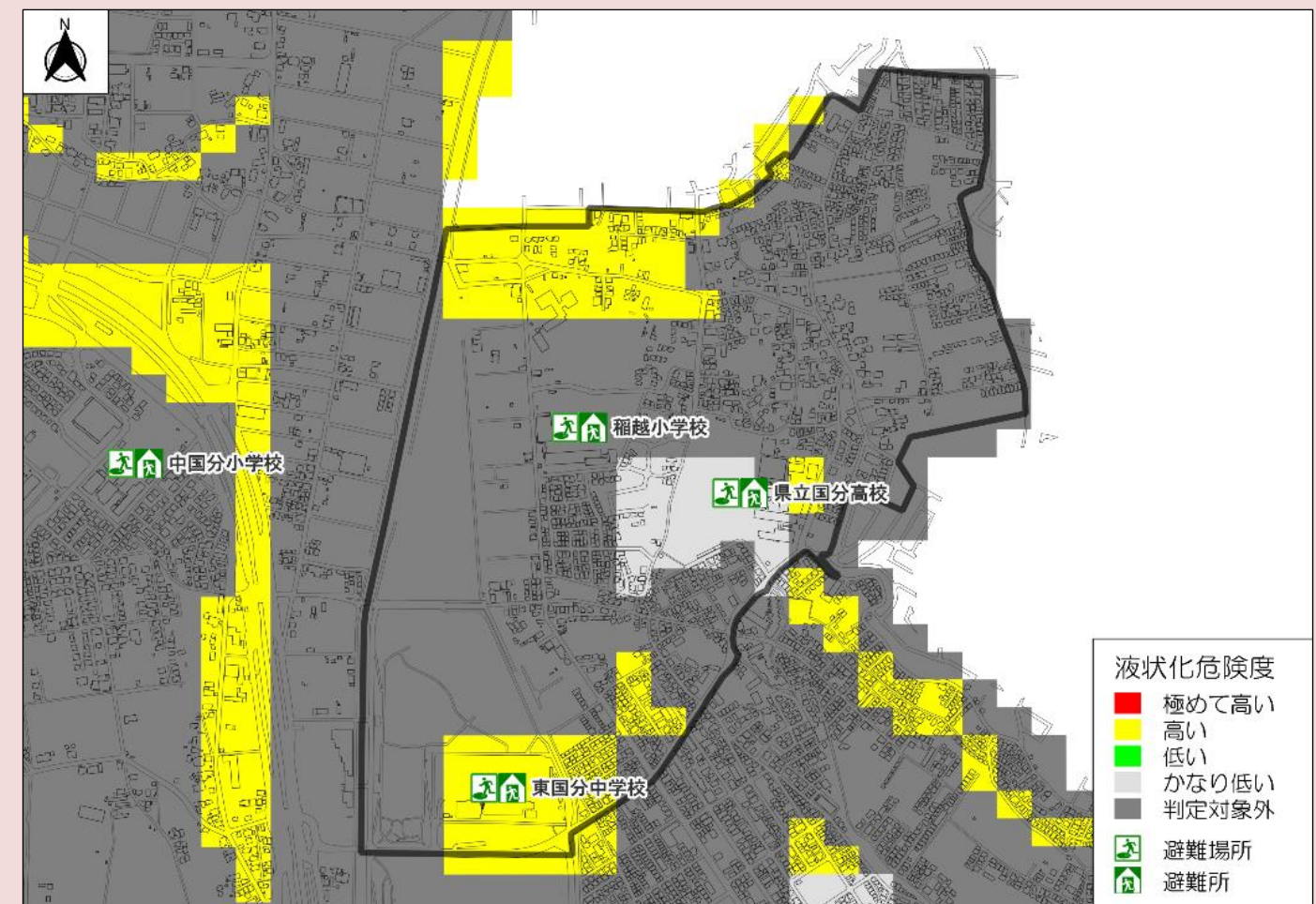


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

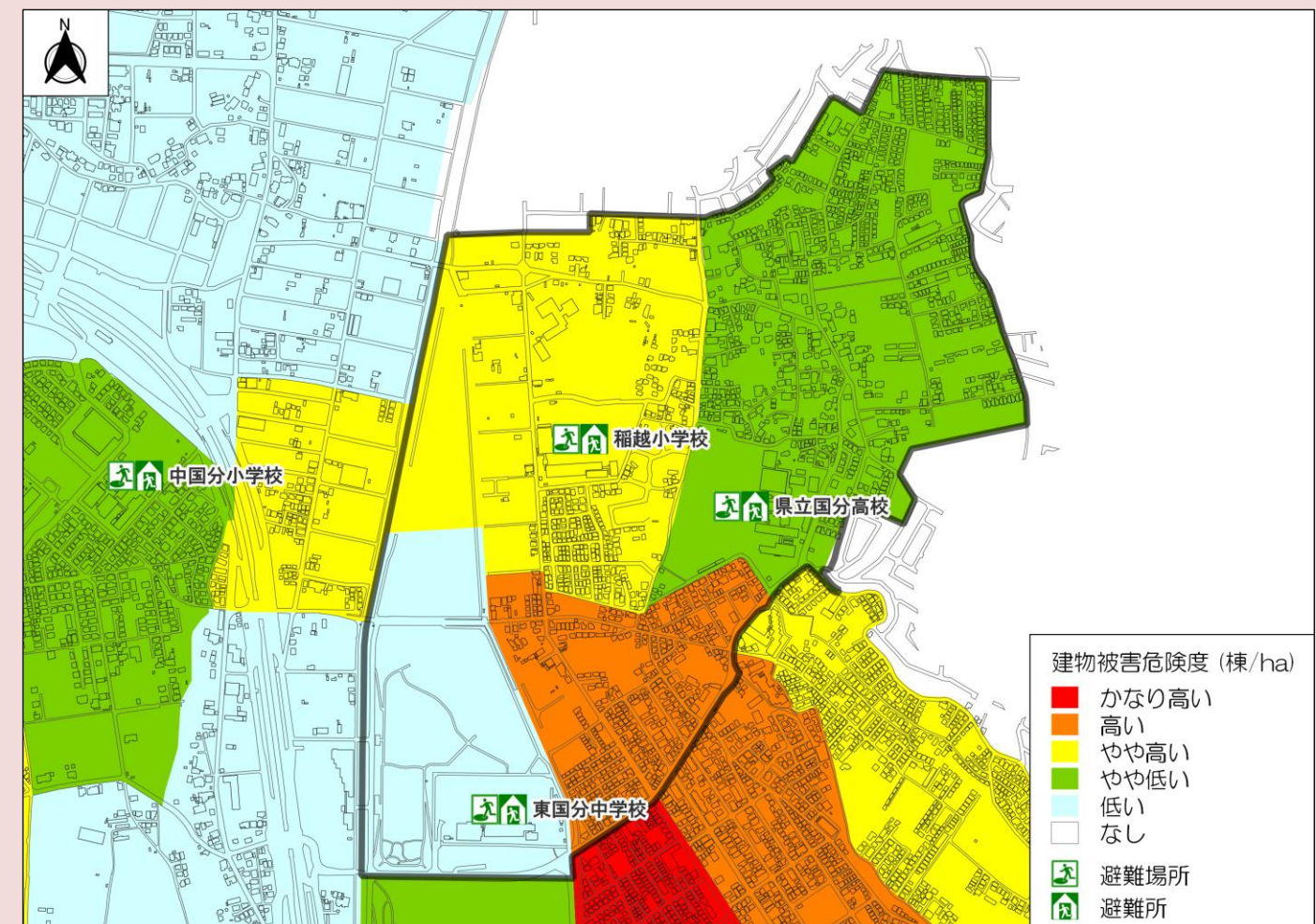
### ②震度分布図



### ③液状化危険度

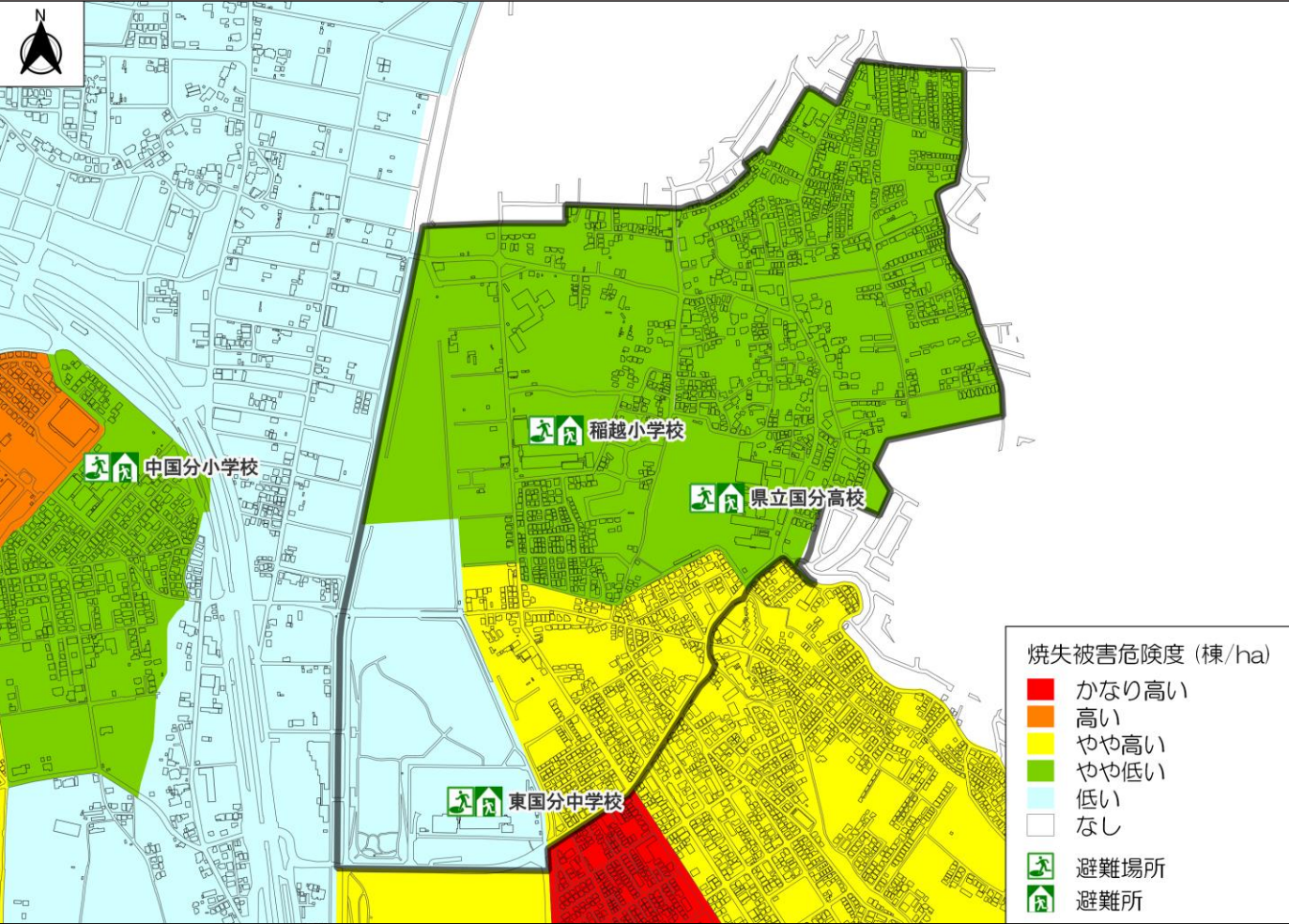


### ④建物被害（揺れ・液状化による被害）

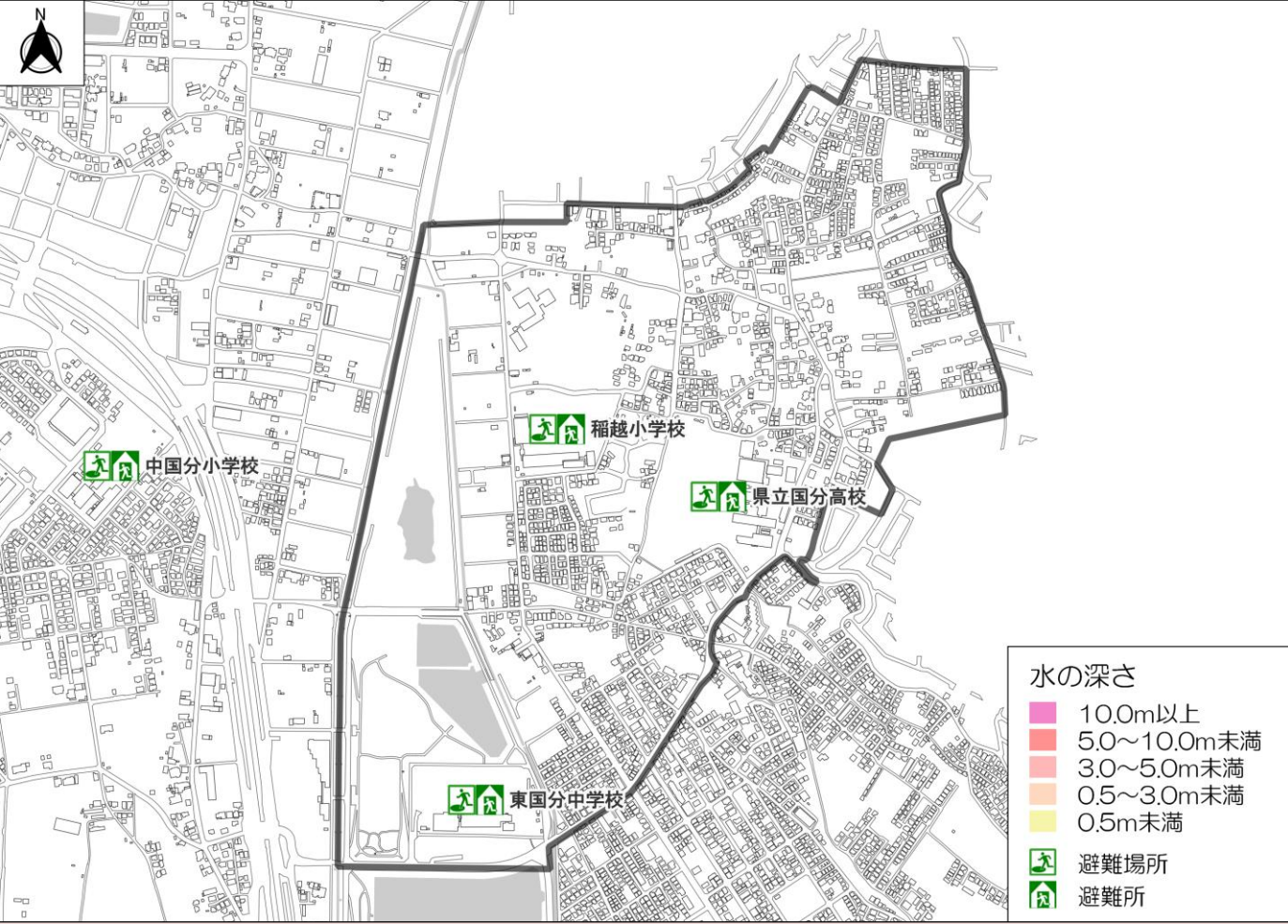




⑤建物被害（延焼による被害）



⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

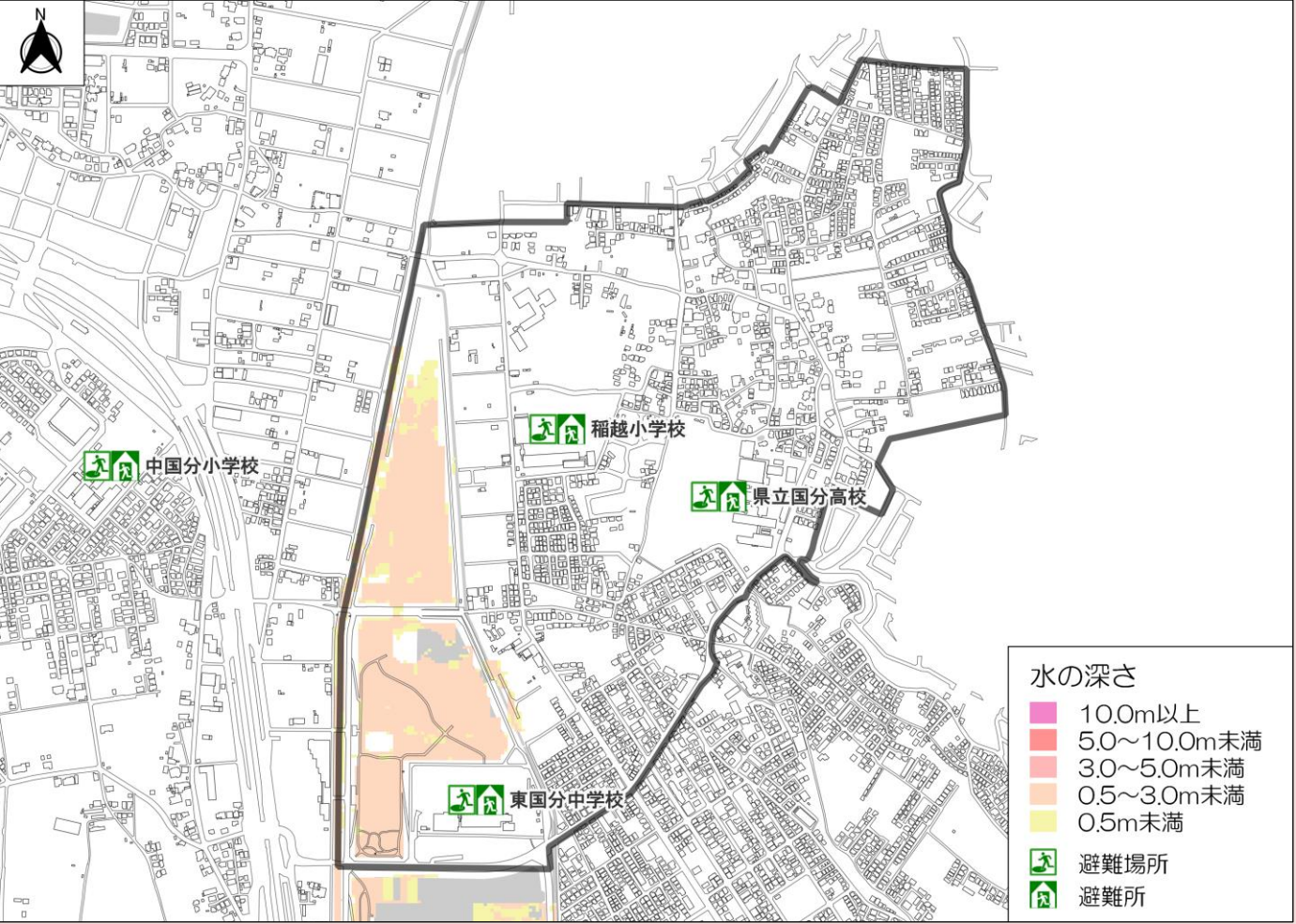
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

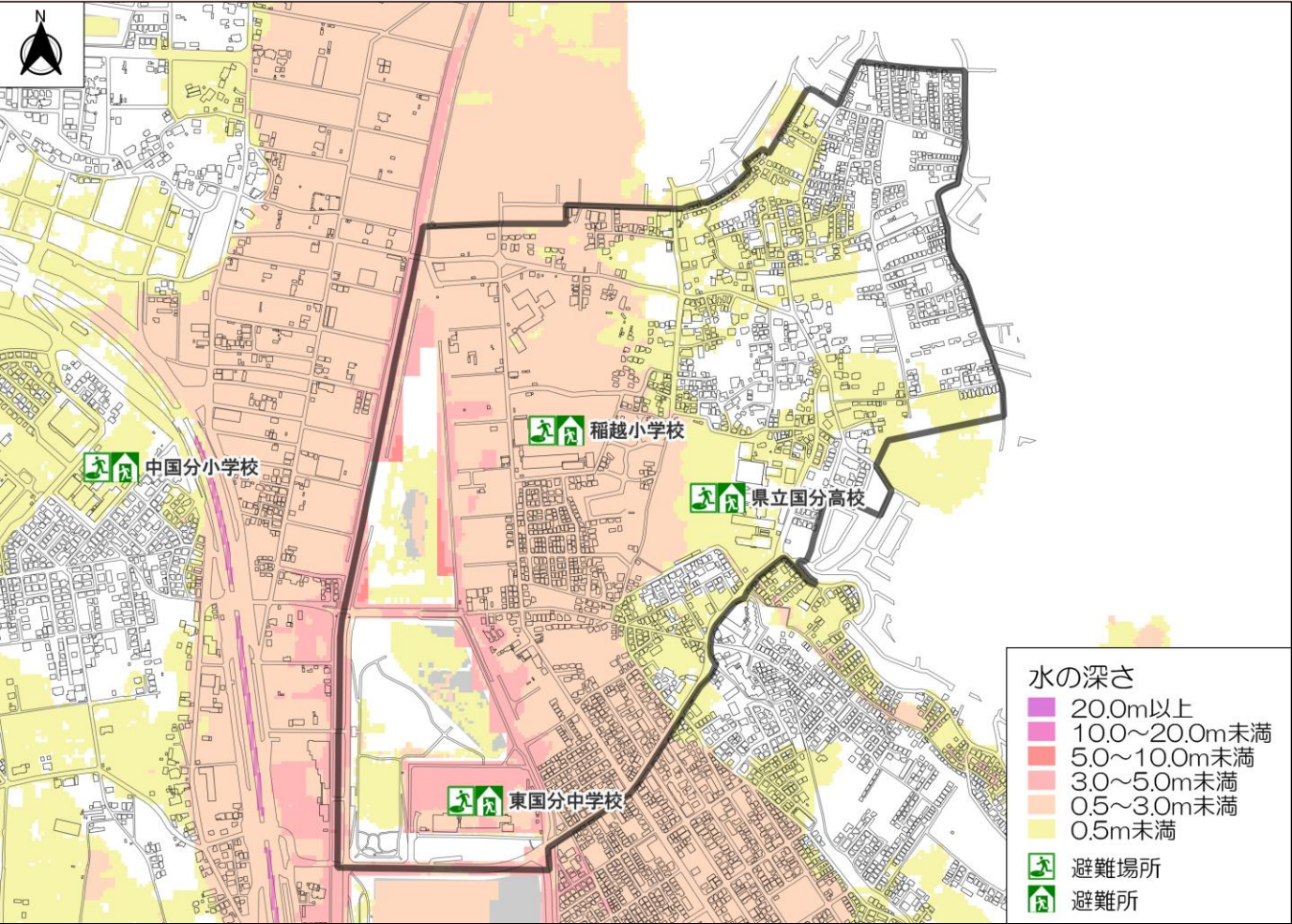
⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

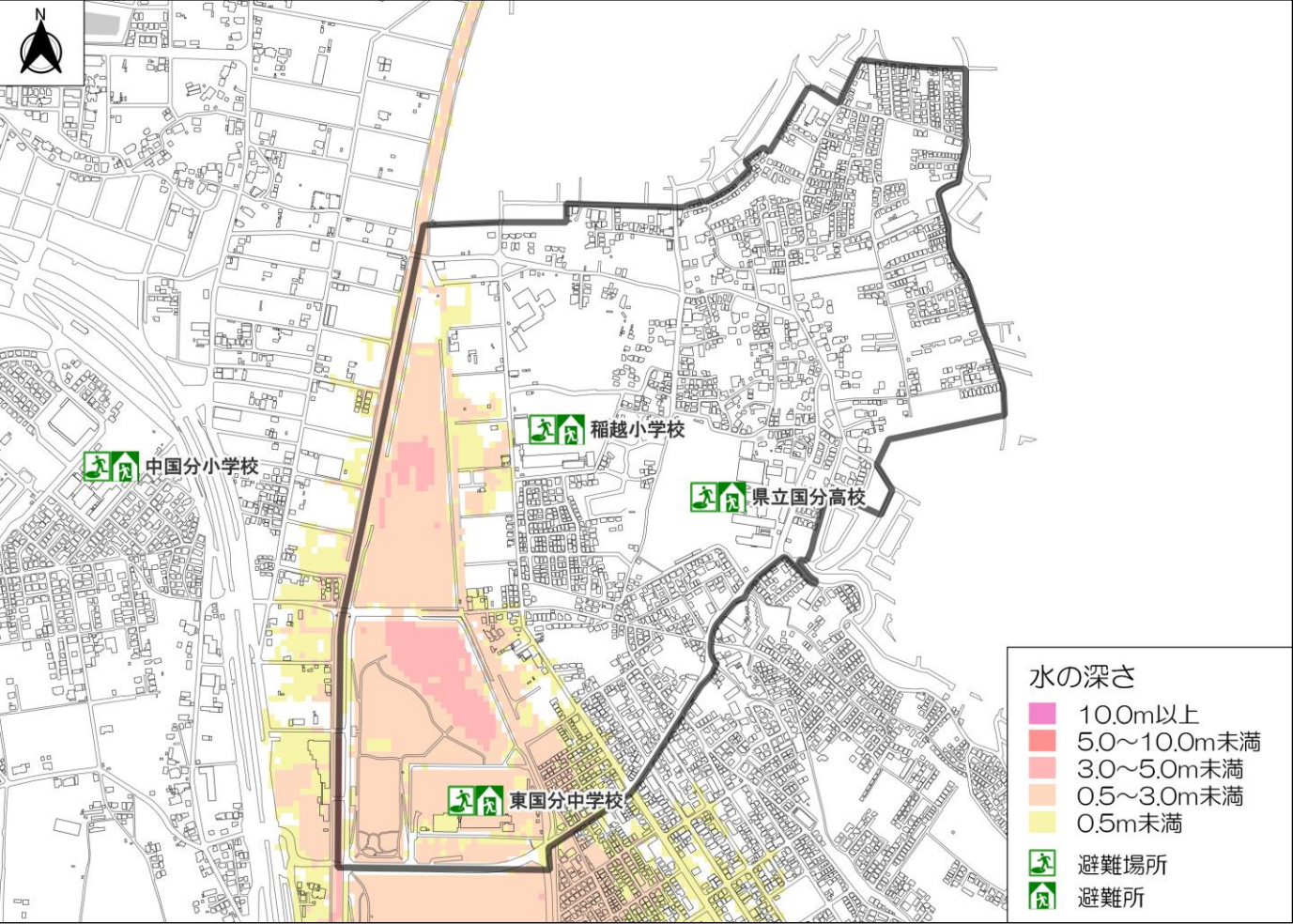


⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ

